Ⅲ　主な出来事

○徳之島の茶生産は平年よりやや遅れて開始

徳之島の一番茶生産は，平年より5日程度遅れの3月25日から開始された。徳之島で栽培されている3品種のうち，早生品種の「そうふう」の生葉生産量は250kg/10a程度で，品質は良好であった。続く「サンルージュ」は二度摘みを実施し，本茶・1.5番茶合わせて230kg/10a程度となり，品種特性である紅色も良好であった。4月中下旬からは，「べにふうき」の紅茶・煎茶製造が開始される。

○さとうきび製糖終了。生産量は減少，糖度は上昇

4月1日に徳之島のさとうきび製糖が終了した。今期は，夏季の干ばつや台風等の大きな気象災害がなく，生産量は16.3万ｔ（前年比△1.1万ｔ），平均糖度は14.69度（前年比＋0.97度）となった。農業普及課では，関係機関と連携し，ビレットプランタやスクープ等の機械化による省力化と，徳之島さとうきび農作業受委託調整センターの運営強化による適期作業を推進していく。

○徳之島から全共出品牛を！一次予選会が開催

今年度開催される全国和牛能力共進会鹿児島県大会「種牛の部」出品候補牛の選定が始まった。その皮切りに，4月18日，徳之島3町から選抜された6頭（第2区4頭，第3区2頭）の一次予選会（体側と比較審査）が徳之島中央家畜市場で行われた。今後，沖永良部島と与論島の選抜牛と合わせて総合審査が行われ，まずは大島地区代表牛が選抜される。8月末にある全共出品牛の県最終予選会に徳之島からの出品を目指し，今後も生産者と関係機関が一体となって取り組む。

○赤土新ばれいしょ「春一番」集荷終了

徳之島地域赤土新ばれいしょ「春一番」の集荷が令和4年4月20日に終了した。数量実績は約7,000ｔ（前年比約3,000ｔ増）の見込である。今作は，植付時の畑かん活用による出芽率向上，ドローンでの共同防除による病害抑制が図られ，生育中期にかけて好天が続いたことから，大玉・増収傾向となった。しかし，2月以降の長雨による収穫遅れや軟腐病の多発生が課題となったことから，防除体系や選果場での保管体制等について，関係機関で改善策を検討していく。

○令和4年度産トルコギキョウ栽培品種を検討，選定！

4月20日，徳之島トルコギキョウ組合が栽培品種選定会を開催し，令和3年度栽培品種の生育特性やメーカー育成品種について情報共有し，令和4年度の栽培品種選定を行った。組合長より「令和3年度産は高単価であった。令和4年度産は栽培しやすさも考慮し，トルコギキョウの生産量増大と品質向上に努めよう」と前向きな意見が述べられた。農業普及課では引き続き，実証や研修会等を通して栽培技術の向上を図り，良品質生産を目指していく。

○えだまめハーベスタ実演検討会を開催

５月17日，農業開発総合センター徳之島支場で，えだまめハーベスタの実演及び検討会が開催され，生産者及び関係機関約30人が参加した。当機は，慣行の脱莢機に比べて約35分の１の作業時間で収穫脱莢が可能であり，国内外で40台以上普及している。島内のえだまめ生産面積は年々拡大しているが，未だ２ha弱である。費用対効果の面から早急な導入は難しいが，今後の産地化を図る中で，省力化に向けた各種検討を重ねていく計画である。

○「さとうきびスマート農業コンソーシアム」現地報告会を開催

５月18日にさとうきびスマート農業コンソーシアム現地報告会が開催された。本コンソーシアムでは，クボタ，ＮＥＣ，南西糖業，南西サービス，農業普及課が協力し，①ハーベスタの稼働時間や位置情報を測定し，ＫＳＡＳ上で収穫作業の進捗状況の把握，②衛星画像や気象・土壌センサー等を活用した生育判断・収量予測，かん水効果検証，などに取り組む。今年2月から実証が開始され，農業普及課では，今後も関係者と連携を強化する。

○畑かんマイスター連携会議を開催

５月20日に徳之島地域総合営農推進本部による畑かんマイスター連携会議総会が開催され，畑かん推進に向けた意見交換が行われた。本会議は，畑地かんがいを利用した営農で先進的な取組を行っている地域のリーダーを「畑かんマイスター」として委嘱し，水利用展示ほ設置をはじめ，さらなる水利用技術の普及と畑地かんがい農業の推進を図っており，現在，管内３町で15人が活動している。農業普及課では本会議の活動支援により，畑かんを活用した営農を推進していく。

○マンゴーの摘果講習会を開催

５月24・26日に管内３町でマンゴーの摘果講習会を開催し，延べ33人の農業者が参加した。今年産は，前年産の着果過多や開花期の低温等の影響により，多くの園地で一部着果が少ない樹が見られ，ほ場内での着果量のばらつきが大きい。農業普及課では，適正着果の推進により連年安定生産に向けて支援していく。

○実えんどう出荷反省会を開催

5月26日にＪＡあまみ天城事業本部，27日にＪＡあまみ徳之島事業本部において標記会が開催され，生産者部会員計18人が参加した。前作は比較的低温で推移したこともあり，前作より単収は増加したものの，競合品目であるばれいしょの高単価等を受けて産地規模は減少し，計７haとなった。農業普及課では，前作の反省と高単収生産者の管理事例等について紹介した。会員からは，次作はさらなる単収向上を目指したいとの意見が出された。

○畑かん営農推進研修会を開催

５月31日，今年度に農政部署に異動した関係機関・団体等の職員を対象に，畑かん営農推進研修会を開催した。当日は約30人が出席し,「畑地かんがい営農ビジョン」を始め，土壌の特性，作物別の効果的な水利用法，畑かんの基礎知識，水利用組織の設立等について研修した。また，散水器具を設置した展示ほにおいて，散水器具ごとの特徴や注意点について研修した。今後も，さらに関係機関・団体等と連携し，畑かん営農の推進を図ることとしている。

○さとうきびスマート農業推進キックオフ会議が開催

５月31日に徳之島地域スマート農業実証コンソーシアム第1回推進会議が開催され，関係機関33人が参加した。これまで，さとうきびに係る情報の一元化と効率的な作業受委託調整に取り組んできたが，新たに直進アシスト付トラクタを活用した多様なオペレーターの確保と高精度作業の実施に取り組むこととしている。

○ハカマ活用による粗飼料増産に期待！！

肉用牛振興協議会大島支部では，今年3月にさとうきびをハーベスタで収穫後に，ほ場に散在するハカマ（きび鞘頭部及び茎葉）をロール梱包して牛に給与する実証（10戸にロール1個ずつ配布）を行った。先日の給与状況調査では，製品の水分状態は良く，土の混入は少なく，すべての農家で完食していた。特に冬場の粗飼料として助かるという意見が多く，粗飼料増産の一助となることが期待される。今後，畜産及びさとうきびの関係者で，普及に向けた課題を整理していく。

○飼料コスト低減が期待できるトランスバーラの拡大に向けて！

6月10日，徳之島地域総合営農推進本部畜産部会の定例会が開催され，今年度の飼料作物実証ほの設置状況や調査成果について検討した。昨年度までの調査結果により，ローズグラスよりも栄養収量が高いトランスバーラを推進し，飼料コストの低減を図ることを確認した。今年度は，徳之島の肉用牛経営の課題である粗飼料自給率向上のため，トランスバーラの増収対策やスーダングラスの優良品種選定などの実証試験を行う。

○６人の新規就農者が営農を開始！

6月24日，天城町役場にて，新規就農者励ましの会を開催した。今年度は，管内3町2人ずつの計6人が新たに営農を始めており，天城町長及び県徳之島事務所長からの激励後，新規就農者から緊張しながらも規模拡大や新たな品目への挑戦などの抱負の表明があった。農業普及課では，指導農業士会や関係機関等と連携し，早期定着に向けた様々な支援を行っていく。

○徳之島農業青年クラブ連絡協議会総会を開催

6月24日，天城町役場にて徳之島町農業青年クラブ連絡協議会の総会が開催され，会員及び関係機関の計25人が出席した。コロナ禍により過去2か年は島外視察研修等を自粛しているが，令和4年度は，リモートによる県連活動への参加等を通し，感染対策を徹底しながら積極的に内外の情報交換を行うこととなった。また，指導農業士会等とも連携し，産地の担い手として活動の幅を広げていく。

○徳之島赤土新ばれいしょ「春一番」出荷反省会を開催

7月19日と20日に標記会が3か所で開催され，部会員延べ188人が参加した。令和4年産実績は，生産面積448ha，生産量7,453t，共販額1,656,460千円であり，2月の降雨により，収穫の遅れや病害の多発生，3月の収穫集中による価格下落がみられた。肥料価格が高騰する中，基準を超過する施肥事例が散見されることから，施肥に係る試験成績や土壌分析に応じた適量施肥を呼び掛けた。農業普及課では，今後も所得向上に向けた支援を行っていく。

○たんかんの栽培管理について学ぶ

7月22日に徳之島町，27日に天城町のたんかんほ場にて，栽培講習会を開催し，生産者・関係者の延べ100人が参加した。前年度産は生産量がかなり少なかったが，今年度産は着果量が多いことから，実演を交えながら摘果の重要性や適正着果量などについて講習を行った。農業普及課では，今後も連年安定生産に向けた支援を行っていく。

○インボイス研修会・経営相談会を開催

７月27日，徳之島農業改良普及事業協議会等の主催で，農業者，青果物集荷業者，関係機関を対象に，令和５年導入予定のインボイス制度に関する研修会を開催し，理解促進を図った。県農業経営スペシャリストの本田税理士を講師に迎え，徳之島事務所と島内３町の各会場をオンラインで繋いで開催した。さらに今回は，自宅・事務所から個人端末で参加できるウェビナー方式による申込者も15人おり，最終的な参加者は26人であった。当日は，同講師による経営相談会も実施した。

○さとうきびハカマ有効利用に向けた意見交換会を開催

７月29日，畜産関係者と糖業関係者によるさとうきびハカマの有効利用に向けた意見交換を行った。畜産関係者から当地域における粗飼料増産の取組や，ハカマロールの生産手順（動画視聴）等の説明を受けた後，意見交換を行った。ハカマロールの生産は耕作廃止予定ほ場で取り組みやすい，ハカマと堆肥を交換してほしい，畜産農家によるさとうきび管理作業への協力が期待できる等の意見が出た。今後とも，耕畜連携のしくみづくりに向けた話し合いを進めていきたい。

○徳之島からレザーリーフファンを初出荷！

当地域では，令和２年からレザーリーフファンの導入に取り組んできたが，pHが高い畑かん水の頭上かん水により，石灰分による葉の汚れの影響で昨年は出荷に至らなかった。そこで，今年，地表面の点滴かん水に変更することで，石灰分による葉の汚れを解決した。また，バガス被覆による土壌水分保持を行って生育改善を図り，今年７月14日と８月５日に市場へ初出荷し，平均単価35円／本の高単価で取引された。農業普及課では，今後も安定出荷を目指して支援していく。

○さとうきび夏植推進に向けて出発式を開催

さとうきびの夏植推進出発式が徳之島町で7月12日，天城町で７月21日，伊仙町で８月３日にそれぞれ開催され，３町合計で450haを目標に夏植推進を行う。目標を達成するため，農業普及課は，夏植の実証・展示ほを設置して夏植のメリットを周知するとともに，年内夏植収穫率75％を達成するための出荷体制整備等について，関係機関と連携して取り組んでいく。

○自給飼料増産でコスト低減を！畜産部会で現地検討

８月10日，徳之島地域総合営農推進本部畜産部会で設置している飼料作物実証ほの現地検討を実施し，部会員13人が参加した。栽培を推進しているトランスバーラの増収技術として，スーダングラスとの条まき混播が有望であること，夏季ロータリー耕（根切り）が草勢回復に効果があることなどを確認した。今年度，部会ではトランスバーラを含めて８つの実証展示ほを設置しており，実証成果を農家に情報提供しながら，地域の栽培ごよみを作成予定である。

○次年産に向けたマンゴーのせん定講習会を実施

８月17日に天城町，８月18日に徳之島町のマンゴーほ場にてせん定講習会を開催し，計34人の生産者及び関係者が参加した。今年産は，開花期の低温により着果が少ない樹が見られ，収穫前から新梢が多数発生している樹があることから，実演を交えながら枝の間引きや新梢の整理方法等について講習を行った。農業普及課では，今後とも連年安定生産に向けた支援を行っていく。

○肥料価格高騰対策事業に向けた体制検討

8月25日に園振協徳之島支部及び徳之島地域総合営農推進本部園芸部会が連携し，肥料価格高騰対策事業に向けた体制について協議した。現時点で把握している助成事業等の内容を確認し，互いに想定されることについて意見交換を行った。また，10月の申請開始に向け，各町は土壌分析の現況確認や町支援策の整理，ＪＡは事業に該当する肥料の把握，農業普及課はその他県庁への確認等，役割分担を行った。今後は，関係機関・団体と情報を共有し，事業に対応できるよう体制を整えていく。

○全共に徳之島産牛が出品！最終予選会にも初出場！

８月28～29日に行われた，第12回全国和牛能力共進会（以下，全共）本県最終予選会（種牛の部第２区）に，徳之島町の永吉ファーム出品の「わいど」号が出場した。全共本選への出品は叶わなかったが，大島地区として，初めて取り組んだ全共種牛の部で最終予選まで勝ち抜いたことは，５年後の次回大会につながる大きな成果であった。なお，同第６区肉牛群では，徳之島町の武元光代氏生産の「亀吉」の全共出場が決まり，関係者一同，優秀な枝肉成績を期待している。

○徳之島町有機農業推進協議会が生産者説明会を開催

９月６日に標記会がＪＡあまみ徳之島事業本部で開催され，町内のばれいしょ生産者６人が参加した。当協議会では，ばれいしょの有機栽培に関する生産販売の支援を行う計画であり，生産者からは具体的な有機栽培の流れや販売条件等に関する質問があった。10月以降の定植分について，一部ほ場で有機栽培への転換を進めていくこととなっており，農業普及課は有機栽培技術の確立に向けて支援する。

○徳之島で青年農業士総合講座を開催

９月13～14日に標記会が徳之島事務所で開催され，青年農業者４人が参加した。農業をめぐる情勢やプロジェクト活動，農業経営等に関する講義のほか，先輩農業者の講話として指導農業士・女性農業経営士である永吉輝彦夫妻から，これまでの経験を踏まえた助言があった。青年農業者からは，同世代と意見交換もできて貴重な経験となったとの声が聞かれた。農業普及課は，今後も指導農業士会等と連携し，プロジェクト活動支援を中心に青年農業者を支援していく。

○徳之島実えんどう部会が栽培講習会を開催

９月20日に標記会が農業開発総合センター徳之島支場で開催され，部会員９人が参加した。農業普及課から「まめこぞう」の品種特性や栽培の流れについて説明を行い，徳之島支場園芸土壌研究室から具体的な手順について解説があった。近年，競合するばれいしょの高単価により実えんどうの産地規模は縮小しているが，基本技術の徹底と単収の底上げを行い，導入品目としてのメリットを周知していく必要がある。

○マンゴーの病害虫防除等について研修

９月26日に徳之島町と天城町でマンゴー研修会を開催し，延べ45人が出席した。研修会では，夏秋梢伸長抑制効果のある植物成長調整剤（商品名：ターム水溶剤）の使用時期や使用上の注意点等について研修を行った。また，近年，問題となっている病害虫に対する防除方法についても研修した。農業普及課では，今後もマンゴーの連年安定生産及び品質向上を目指して支援していく。

○赤土新ばれいしょ「春一番」栽培講習資料を配付

ＪＡあまみ徳之島事業本部及び天城事業本部では，毎年10月にばれいしょ栽培講習会を開催しているが，新型コロナウイルスまん延の影響により出席率が低下していることから，今年は，講習資料を対象者全員に配布した。内容は，８月に開催した定植前栽培講習会の続編として，定植後から収穫までの栽培管理や病害防除のポイント等について，農業普及課が資料をまとめた。今作の栽培面積は前作よりやや増える見込であり，農業普及課では，適期収穫と単収向上に向け，重点的に支援していく。

○さとうきびのハカマロール実演会を実施

10月４日に奄美群島さとうきび生産振興対策協議会が徳之島で開催され，群島内のさとうきび関係者30人が参加した。現地研修会ではハカマロール（さとうきび収穫後のハカマをロールベールサイレージにする）の実演会を行い，ビレットプランターの採苗ほ場で，収草からロールまで行い，約10aで４個のロールが完成した。農業普及課では，ハカマロールによる耕畜連携を進めるため，さとうきび担当者と畜産担当者が連携し，今後とも実証ほ設置としくみづくりに取り組んでいく。

○東京の果実専門店でピタヤをＰＲ

10月７日に東京都の果実専門店「新宿高野」によるカルチャースクールの試食会において，生産者代表と一緒に特之島産ピタヤのＰＲを行った。当日は，２回で計11人の一般消費者が参加し，ピタヤのカットフルーツを含む４品を堪能した。参加者より，「外国産は味が薄いが，徳之島産は美味しい」「赤肉種の色素は，着色料の代わりとして安心して使える」などの意見が出された。農業普及課では，今後ともＰＲ活動を続けながら，生産拡大に向けた支援を行っていく。

○全共で徳之島産子牛の品質の良さを実証

10月６～10日に開催された第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会の第６区（種牛群及び肉牛群の総合評価群）の肉牛群に出品された，徳之島町母間の武元氏生産の「亀吉」（種雄牛「安亀忠」で肉牛群３頭出品（去勢）のうち１頭。南さつま市(有)江籠畜産が肥育。）が好成績を上げ，本県悲願の第６区での初首席獲得に貢献した。今成績により，徳之島産素牛の品質の良さをアピールできたことで，今後の購買者増加や相場上昇につながるよう，農業普及課も関係者一体となって支援する。

○営農技術・経営研修会を開催

10月25日に伊仙町で研修会を開催し，管内の農業者等100人が参加した。研修では，さとうきび新品種「はるのおうぎ」の特性や，花きでの土壌還元消毒の効果，散水器具の使用方法や故障事例等について研修を行った。また，畑かんマイスターの太田氏による「儲かる農業の秘訣は畑かんにあり」と題した発表では，畑かん利用により所得向上に繋がるとともに，計画的な栽培管理が可能となることを情熱的に語り，畑かん効果をＰＲした。

○肥料価格高騰対策事業に参加する農家への支援

この程，徳之島地域総合営農推進本部は，肥料価格高騰対策事業に参加する農業者への支援として，「化学肥料低減計画書」における「取組メニュー」の手引きを作成した。内容は，主な品目別に取り組みやすいメニューの一覧と技術的要点，関連する各町の支援策，土づくりの技術情報等を掲載した。作成にあたっては，国と県からの情報や，地元から県に要望して得られた情報等を網羅し，農政普及課も支援を行った。手引きは関係機関で共有し，農業者向け説明会で活用を図った。

○全共での快挙を懸垂幕で祝福！

10月に開催された第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会において，徳之島町母間の武元光代氏生産の「亀吉」（種雄牛「安亀忠」で肉牛群３頭出品（去勢）のうち１頭で，南さつま市(有)江籠畜産が肥育）が，第６区（種牛群及び肉牛群の総合評価群）での首席獲得に貢献した。肉用牛振興協議会大島支部では，この度の快挙を祝福する懸垂幕を徳之島事務所に設置し，島民にも徳之島産素牛の品質の良さをアピールするとともに，今後の肉用牛振興と新規就農者の増加に繋げていきたい。

○徳之島地域赤土新ばれいしょ「春一番」定植中

11月に入り，徳之島地域赤土新ばれいしょ「春一番」の定植が本格化している。今作は種いもの入荷が潤沢で，前作より増の約490haに作付けされる予定であるが，種いもの到着が遅れたことに加え，数日おきに降雨があることから，定植作業が全体的に遅れている。急ピッチで定植作業が進められているが，出荷のピークが３月以降に集中する可能性が出ている。農業普及課では，計画出荷に向けて関係機関・団体と連携し，市場との情報共有を図っていく予定である。

○たんかんの隔年結果防止に向けて摘果講習を開催

11月10日に徳之島町，15日に天城町において，たんかん栽培講習会を実施し，生産者等94人が参加した。今年度産は着果量が多く，次年度産の着果への影響が危惧されることから，仕上げ摘果の徹底を呼びかけ，講習会園地での摘果見本樹を設置した。また，近年，被害が増えているサビダニ類の防除対策についても注意を呼びかけた。農業普及課では，今後ともたんかんの連年安定生産に向けた支援を行っていく。

○徳之島地区青年農業者会議を開催

11月21日に徳之島町において標記会議が開催され，青年クラブ員13人，関係機関25人の計38人が参加した。クラブ員から意見発表１人，プロジェクト発表３人の発表があり，２人による視察報告も行われた。会では関係機関も交えた活発な意見交換が行われ，指導農業士から助言も行われた。農業普及課では，今後も指導農業士や関係機関と連携し，青年農業者の資質向上及び経営発展に向けた支援を行っていく。

○「さとうきびスマート農業コンソーシアム」現地報告会を開催

11月15日にさとうきびスマート農業コンソーシアムの現地報告会が開催され，関係者16人が参加した。今後は，ハーベスタ15台に簡易通信ユニットを設置して稼働時間や位置情報を測定し，生産工程管理システム（ＫＳＡＳ）上での収穫作業の進捗状況把握や，気象・土壌センサー及び衛星画像を活用した生育判断・収量予測，かん水効果検証等を計画している。農業普及課では，スマート農業機器を活用し，さとうきびの生産安定及び作業効率化に向けて関係者と連携して取り組んでいく。

○徳之島さとうきび新ジャンプ会が研修会を開催

11月15日に徳之島さとうきび新ジャンプ会（会員36人）の研修会が開催され，会員及び関係機関約30人が参加した。研修会では，農業開発総合センター徳之島支場ほ場にてビレットプランターの植付実演を行い，さとうきびの畦間を150㎝に広げた場合の生産性に及ぼす影響についても学んだ。また，会員のほ場において，省力化できる株出管理機の実演を行った。農業普及課では，今後も関係機関と連携してさとうきびの生産拡大及び省力化に向けた支援を行っていく。

○自給率向上に向けて「ハカマロール」の評価は上々！

現在，さとうきび収穫後のほ場に残っているハカマをロールベールサイレージにし，母牛に給与する技術実証に取り組んでおり，12月の子牛セリ市において本実証のＰＲを行った。当日は，本実証により期待される効果等に係る資料を配付し，10月に試作した製品の展示と需要アンケート調査を実施した。展示した試作品は発酵の香りが良く，アンケート調査結果では，飼料としての利用に前向きな回答が８割以上であり，今後の取組に期待が高まった。

○さとうきびのハーベスタオペレータ研修会を開催

12月12日に伊仙町で徳之島さとうきび生産対策本部主催のハーベスタオペレータ研修会が開催され，ハーベスタオペレータ及び関係機関約140人が参加した。研修会では，ハーベスタの始業前・後の保守点検のポイントや過去のさとうきび収穫時の重大事故の事例を交えた安全対策について，農機メーカーの担当者が分かりやすく説明し，農作業安全への意識向上が図られた。農業普及課では，農作業事故防止に向けた啓発活動を継続して行っていく。

○「徳之島宝赤」の産地拡大に向けた説明会を開催

当地域では20年以上かけて糖度の高いピタヤの系統を選抜し，９月には「徳之島宝赤」の商標権を取得した。12月14日には，「徳之島宝赤」の新規栽培希望者６人に対する説明会を開催し，関係機関を含む16人が参加した。会では，果実の特性や栽培方法，経営試算等について説明を行い，新規栽培希望者からは栽培方法や販売方法等について質問があった。農業普及課では，商標権を取得した徳之島ピタヤ研究会や関係機関と連携し，「徳之島宝赤」の産地拡大に向けた支援を行っていく。

○実えんどう出荷協議会を開催

12月19日に農業開発総合センター徳之島支場にて令和５年産実えんどう出荷協議会が開催され，島内の実えんどう生産者30人が参加した。今作の栽培面積は4.6haであり，年末から３月上旬にかけて出荷される計画である。会では，出荷先との意見交換のほか，試験ほ場において栽培方法の検討が行われた。11月後半の寡日照の影響により，全体的に生育が遅れて草勢が低下していることから，農業普及課では，草勢回復に向けた栽培技術指導を関係機関と連携して実施していく。

○トルコギキョウ産地を視察

12月20～21日に，徳之島花き研究会や関係者８人で南薩地域や農業開発総合センター花き研究室を訪問し，トルコギキョウの新たな産地動向や試験研究について研修を行った。生産者からは，品種選定や他品目との組合せ体系等について積極的な質問がなされ，生産への更なる意欲が向上した。また，天城町農業センターの研修生からは「視察先の営農への前向きな姿勢を見習いたい」という意見が出た。農業普及課では，トルコギキョウの生産が安定し，新規栽培者が増えるように支援していく。

○徳之島地域赤土新ばれいしょ「春一番」の販促活動について検討

12月20日にＪＡあまみ徳之島事業本部にて徳之島地域赤土新ばれいしょ「春一番」連絡協議会総会が開催され，生産者，ＪＡ統括理事，徳之島３町長等の計28人が参加した。今後は，コロナ禍で自粛していた対外活動を段階的に再開していくこととし，本格的な出荷が始まる２月には，中京・京浜市場においてトップセールスや女性部による販促活動を実施することとなった。農業普及課では，今後も関係機関と連携して組織活動を支援していく。

○儲かるための牛飼い！経営改善ポイントを学ぶ

１月17日に徳之島指導農業士会主催による畜産部門現地就農トレーナー研修が開催され，新規就農者や法人の若手従業員など16人が参加した。今回は，農業開発総合センター普及情報課が母牛の適正管理と子牛育成及びＩＣＴ機器について講演し，農業普及課が地域の推進草種「トランスバーラ」の実証ほ紹介等を行い，その後，指導農業士の(株)永吉ファームを視察した。参加者は，受胎率や子牛の発育向上のポイントを熱心に質問するなど，経営改善意欲の高さが感じられた。

○トルコギキョウの品種特性などについて意見交換

１月26日，農業開発総合センター徳之島支場及び花き生産者ほ場にて，徳之島花き研究会主催の現地検討会が開催され，生産者・関係機関16人が出席した。会では，トルコギキョウの試験研究成果や，トルコギキョウとフェニックスロベレニーの品種特性及び生育状況などについて，意見交換を行った。また，生産者による南薩地域での視察報告があり，会員への情報共有が行われた。農業普及課では，引き続き関係機関と連携し，花きの生産推進を図っていく。

○徳之島地域赤土新ばれいしょ「春一番」の出荷始まる

１月28日に天城町で徳之島地域赤土新ばれいしょ「春一番」出発式及びかごしまブランド産地指定10周年記念大会が開催され，約400人が参加した。大会では，大島支庁徳之島事務所長よりK-GAP認証証書が伝達されたほか，市場関係者による情勢報告や，県農業開発総合センター園芸作物部職員による記念講話も行われた。出発式は３年ぶりに盛大に開催され，産地と市場の連携を深める重要な機会となった。今後は，消費地におけるトップセールス等の販促活動が計画されている。

○さとうきびハカマの有効活用に向けて前進！

管内では，製糖工場で排出されたさとうきびのハカマ（製糖時に原料と分別廃棄される葉柄）を，牛舎の敷料に利用できないか耕種部門と連携で検討しているが，ハカマの水分吸収率が低いことが課題である。そこで，１月30日に，与論町「ゆんぬ敷料化ラブセンター」にハカマを持ち込み，機械で粉砕する試験を行った。試験の結果，与論町で活用されている雑木原料の敷料資材と同等の水分吸収率が高い製品ができた。今後，農業普及課では今回の製品を用いた技術実証を行う。

○徳之島産たんかん「玉黄金」は豊作見込み

２月１日に徳之島町で徳之島町柑橘生産組合のたんかんはさみ入れ式が開催され，生産者及び関係者約40人が参加した。同組合のたんかんは「玉黄金」の名称で出荷され，台風等による被害も無く天候に恵まれたことから，今年産は500ｔ以上の豊作を見込む。式では，収穫シーズン到来を喜ぶとともに，品質管理の徹底やブランドの周知拡大に向けた連携強化を誓った。農業普及課では，今後ともたんかんの品質向上と連年安定生産に向けた支援を継続していく。

○曽於市畑地かんがい営農推進本部と意見交換

２月１日に曽於市畑地かんがい営農推進本部より７人が来島し，管内の畑かん推進状況について現地視察と意見交換を行った。曽於市の優良事例で，畑かんを利用する地域の担い手農家が周辺農家へ水利用効果の説明をしている地区は水利用率が伸びているとのことであった。管内では，コロナ禍により畑かん推進員や水利用組織等との関係が希薄になっていることから，曽於市の優良事例を参考にし，関係者と一緒に畑かん推進に取り組んでいきたい。

○さとうきびの春植えを推進中

２月６～７日に，管内３町でさとうきびの春植え推進出発式が開催された。今年は３町合計で915haを目標に春植え推進を行う。農業普及課では，さとうきびの面積拡大と適期植付に向けて，関係機関と連携して種苗の安定供給や徳之島さとうきび受委託調整センターの活用を推進していく。

○奄美群島の花き生産者が沖永良部に集結

２月９～10日に，奄美群島花き合同研修会が沖永良部で開催され，管内の生産者・関係者６人が参加し，トルコギキョウやキクについて研修した。研修では，自家育苗に係る現地研修や，奄美群島の各島の花き栽培の現状や取組などについて意見交換を行った。管内の生産者からは，「沖永良部の栽培技術の高さに圧倒された」などの意見が出され，栽培意欲が高まった。今回の研修により奄美群島の花き生産者の交流が深まったことから，次年度以降も交流を続けていきたい。

○ＪＡ女性部が京浜・中京市場にて新ばれいしょ販売促進活動を展開

２月18日から19日にかけ，ＪＡあまみ徳之島事業本部及び天城事業本部の女性部，町，青果業者，県経済連，県外事務所及び農業普及課で連携し，京浜及び中京市場にて赤土新ばれいしょ「春一番」の販売促進活動を実施した。量販店にて，徳之島がばれいしょ産地であること，赤土ばれいしょは肌目が細かいことなどを生産者が宣伝することで，安全・安心のＰＲができたと考えられた。農業普及課では，今後も，生産者組織の活動支援を継続する。

○島内の花を使って子どもたちにフラワーアレンジを教える

2月24日に，徳之島花き研究会と園芸振興協議会徳之島支部が主催となり，徳之島町発達支援センターあおぞら園の児童及び先生約20人を対象にフラワーアレンジメント教室を実施した。花材は，すべて島内で生産されているトルコギキョウやソリダゴ，レザーリーフファンを使用した。児童からは「島で花が栽培されていることを知らなかった。家族や友達に教えたい。」，先生からは「いい経験になった。今後は島の花を買いたい。」などの感想を得た。農業普及課では，関係者と連携して島の花きPRを続けていく。